

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔理科〕 種目〔理科〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [理科] 種目 [理科]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は都市部もあれば山間部もあり、地域によって自然環境も様々である。また施設も充実しており、こども文化科学館、安佐動物公園、植物公園、江波山気象館、森林公園こんちゅう館など様々な分野の事象を具体的に観察、調査することができる環境にある。
- 平成30年度全国学力・学習状況調査によると、本市の児童の理科に関する興味・関心は高く、8割以上の児童が理科の学習を「好き」と回答している。また、問題の正答率は、全領域において全国平均を上回っている。しかし、領域ごとの正答率は、「物質」では約6割、「エネルギー」及び「地球」では6割を切っており、十分定着しているとは言えない。また、主として「活用」に関する問題においては、観察・実験した結果から考察して表現することや、それらを実生活につなげて考えたり進んで活用したりすることに課題が見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
<基礎・基本の定着>	① 知識の定着を図るための工夫 ② 観察・実験の技能を習得させるための工夫
<主体的に学習に取り組む工夫>	③ 興味・関心を高めるための工夫 ④ 問題解決の能力を育成するための工夫
<内容の構成・配列・分量>	⑤ 単元の配列の工夫 ⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い
<内容の表現・表記>	⑦ 挿絵・写真等の示し方 ⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫
<言語活動の充実>	⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 各学年の「学んだことを使おう」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元末に、「たしかめよう」として、学習の定着を図る問題を設定している。
- 各学年の巻末に、「学んだことをふり返ろう！」として、1年間の学びを振り返るページを設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼い方、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「きけん」マークを付して示している。
- 4・5・6年に、理科室の使い方をイラストと写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2～3ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、気付きを促す写真を示すとともに、単元導入に行う活動を漫画形式等で示している。
- 「レッツ スタート！」のコーナーで、単元導入に行う活動を示している。
- 「理科のひろば」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「理科の学び方」に学習の進め方を示している。
 - ① 問題をつかむ（問題）
 - ② 調べる（予想しよう・計画しよう・観察・実験・結果）
 - ③ まとめる（考察しよう・まとめ・学びを生かして深めよう・次の問題を見つけよう）
- 各単元において、問題解決の項目を線でつなぎ、つながりを表している。
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭の「理科の学び方」に示すとともに、各単元に「レベルアップ理科の力」コーナーを設定している。
- 「わたしの研究」では、自由研究の進め方を各学年4ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- A4判
- 3年176ページ、4年212ページ、5年180ページ、6年220ページ
- 3年16単元、4年17単元、5年10単元、6年11単元
- 3年約410g、4年約480g、5年約440g、6年約510g ※一の位を四捨五入
- 巻頭に、領域別に単元を整理したページを設定している。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
3年29、4年36、5年32、6年50
- 「学びを生かして深めよう」や「つなげて考えよう」の問題で、既習事項や生活経験を使って考える場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「雨水のゆくえと地面のようす」の導入として、降雨中の校庭の写真を掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、各地の天気、空の様子等の4種類の資料を示している。
- 6年「動物のからだのはたらき」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図を掲載している。また、巻末付録に、「人体模型」がある。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- すべての文字にユニバーサルデザイン書体を採用している。
- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字と下線で強調している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各学年の考察場面では、短い文と児童の吹き出しで考察の視点を示している。
 - ・ 5年「ふりこのきまり」の考察場面では、6グループの結果を表す分布図からふりがが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。また、調べた結果が他の班と違う結果になったときは、実験計画を振り返り再度調べる必要性を示している。
 - ・ 6年「水溶液の性質とはたらき」の考察場面では、「実験6の結果から、塩酸にとけた金属はどうなったといえるか、考えましょう。」という短い文と児童の吹き出しで、考察の視点と考えを修正した様子を示している。
- 巻末に「ノートのかき方」「記録カードのかき方」「発表のしかた」「話し合いのしかた」を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 各学年の「生活科/〇年で学んだこと」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元末に、「確かめよう」として、学習の定着を図る問題を設定している。
- 各学年の巻末に、「〇年のまとめ」として、1年間の学びを振り返るページを設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼い方、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「注意」マークを付して示している。
- 4・5・6年に、理科室の使い方をイラストと写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、気付きを促す写真を示すとともに、単元導入に行う活動には、短い文や児童の疑問や気付きを付している。
- 「深めよう」のコーナーで、学習の中での観察・実験とは別の方法で追究する方法を示している。
- 「りかのたまてばこ」「サイエンスワールド」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「理科の学び方」に学習の進め方を示している。
 - ①問題をみつけよう、②予想しよう、③計画を立てよう、④調べよう、⑤記録しよう、⑥考えよう、⑦まとめよう
- 問題解決の過程を3色で色分けし、問題解決の過程のどこに該当する内容かを示している。
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭の「理科の学び方」に示している。
- 「自由研究」では、自由研究の進め方を各学年4ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- AB判
- 3年192ページ、4年222ページ、5年190ページ、6年222ページ
- 3年14単元、4年18単元、5年10単元、6年12単元
- 3年約430g、4年約460g、5年約400g、6年約460g ※一の位を四捨五入
- 領域別に4色で色分けしている。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
 - 3年38、4年48、5年42、6年50
- 「深めよう」コーナーや「学んだことを生かそう」の問題では、既習事項を次の学習や生活につなげる場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「雨水のゆくえ」の導入として、降雨中と降雨後の校庭の写真に掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、空の様子3種類の資料を示している。
- 6年「体のつくりとはたらき」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図を掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- すべての文字にユニバーサルデザイン書体を採用している。
- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字で強調している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各学年の考察場面には、児童の吹き出しで考察の視点を示している。各学年の最初の考察場面のみ、自分の予想を振り返ることの大切さを示す吹き出しがある。
 - ・ 5年「ふりこの動き」の考察場面では、10グループの結果を表す分布図からふりがが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。
 - ・ 6年「水よう液の性質」の考察場面では、短い文で「結果からいえることを話し合ひましょう。」と示し、児童の吹き出しで考察する視点を示している。
- 巻頭に「話し合いの仕方」、巻末に「理科のノートの書き方」を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 4・5・6年の「〇年生で学んだね」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元末に、「まとめてみよう」として、学習の定着を図る問題を設定している。
- 各学年の巻末に、「〇年生で学んだこと」として、1年間の学びを振り返るページを設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼い方、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「注意」マークを付して示している。
- 各学年に、理科室の使い方をイラストと写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、気付きを促す写真を示すとともに、単元導入に行う活動には、短い文や児童の疑問や気付きを付している。
- 単元冒頭に主な学習内容や「調べていこう!!」のコーナーを設けている。
- 「やってみよう!」「調べてみよう!」「つくってみよう!」のコーナーで、学習の中での観察・実験とは別の方法や工作を紹介している。
- 「資料」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「科学の芽を育てよう」に学習の進め方を示している。
 - ①問題をみつける、②予想する、③計画する、④調べる、⑤整理する、⑥結果から考える、⑦まとめる、⑧生かす
- 各単元において、一連の問題解決の流れを矢印でつなぎ、つながりを表している。
- ページ下部のチャートで問題解決の過程のどの部分かを示している。
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭の「科学の芽を育てよう」に示している。
- 「わたしの自由研究」では、自由研究の進め方を各学年2ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- AB判
- 3年180ページ、4年204ページ、5年192ページ、6年228ページ
- 3年16単元、4年17単元、5年12単元、6年11単元
- 3年約430g、4年約490g、5年約450g、6年約540g ※一の位を四捨五入
- 巻頭に、領域別に単元を整理したページを設定している。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
 - 3年33、4年50、5年43、6年60
- 「活用 学びに生かそう」マークを付した活動や問題に、既習事項を次の学習や生活につなげる場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「雨水の流れ」の導入として、降雨中と降雨後の校庭の写真に掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、各地の天気、空の様子 of 4種類の資料を示している。
- 6年「人や動物の体」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図を掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字で表記するとともに、「大事な言葉」として示している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各学年の考察場面では、短い文と児童の吹き出しで、考察の視点を示している。
 - ・ 5年「ふりこの運動」の考察場面では、3回の実験結果を棒グラフに表し、他のグループの結果と比べながらふりこが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。
 - ・ 6年「水溶液の性質」の考察場面では、「出てきたものはとかす前の金属と同じか、考える。」など、考察するための視点や活動を短い文と児童の吹き出しで示している。
- 巻末に「伝える・聞く」「記録する」を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 各学年の「〇年で学んだこと」や「思い出そう」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元冒頭の「学習のつながり」に、小学校から中学校までの学習の系統性を示している。
- 各単元末に、「確かめ」として、学習の定着を図る問題を設定している。
- 各学年の巻末に、「〇年で学んだこと」として、1年間の学びを振り返るページを設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼いや、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「注意」や「危険」マークを付して示している。
- 裏表紙に「理科の安全の手引き」を示している。
- 4年に、理科室の使い方をイラストと写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、「□□さんの気づき」や「□□さんの疑問」というタイトルで、児童の疑問や気づきを付している。
- 「見つけよう」で単元導入に行う活動を示している。
- 「チャレンジ」のコーナーで、学習の中での観察・実験とは別の方法や工作を紹介している。
- 「資料」「広がる学び」「科学のまど」「広がる科学の世界」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「学習の進め方」に学習の進め方を示している。
見つけよう、問題、予想しよう、計画しよう、観察・実験、
結果から考えよう、結論、学びを広げよう
- 各単元において、問題解決の項目を線でつなぎ、つながりを表している。
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭の「学習の進め方」に示すとともに、「〇年で大切にしたい言葉」には、問題解決の力に関係する言葉を示している。
- 「わたしの研究」では、自由研究の進め方を各学年4ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- A4変形判
- 3年200ページ、4年240ページ、5年228ページ、6年236ページ
- 3年14単元、4年17単元、5年13単元、6年11単元
- 3年約470g、4年約540g、5年約500g、6年約530g ※一の位を四捨五入
- 生命・地球領域と物質・エネルギー領域で色分けしている。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
3年45、4年65、5年65、6年58
- 「学びを広げよう」「科学のまど」「資料」では、既習事項を次の学習や生活につなげる場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「雨水と地面」の導入として、降雨中の校庭と砂場の写真を掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、各地の天気、空の様子等の4種類の資料を示している。
- 6年「人や他の動物の体」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図を折り込みページを使い、ほぼ実際の大きさで掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- すべての文字にユニバーサルデザイン書体を採用している。
- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字とマーカー処理で強調している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各学年の考察場面には、予想と結果を比べることを促す短い文と予想と結果を比較している児童の吹き出しがある。
 - ・ 5年「ふりこ」の考察場面では、5回の実験結果を表と分布図に記録したものからふりこが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。また、見通しと違う結果になったときは、実験計画を振り返り再度調べる必要性を示している。
 - ・ 6年「水溶液」の考察場面では、「実験3の結果から、塩酸をアルミニウムに注いだときの変化について、自分の予想が確かめられたかを考えましょう。」と短い文で示すとともに、児童の吹き出しで考察の視点と考えを修正する様子を示している。
- 巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」「学習の進め方」に話型を示し、さらに「ノートのとり方」を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 各学年の「思い出そう」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元末に、学習を振り返る「まとめよう」を設定している。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼い方、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「注意」マークを付して示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、気付きを促す写真を示すとともに、単元導入に行う活動には、短い文や児童の疑問や気付きを付している。
- 「やってみよう」のコーナーで、学習の中での観察・実験とは別の方法を紹介している。
- 「しりょう」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「理科の学習の進め方」に学習の進め方を示している。
 - ①自然とふれ合おう、②問題を見つけよう、③予想をもとう、④予想の確かめ方を考えよう、⑤確かめよう、⑥結果を記録しよう、⑦いえること・いえないことを考えよう、⑧まとめよう
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭に示している。
- 「やってみよう自由研究」では、自由研究の進め方を各学年4ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- AB判
- 3年162ページ、4年186ページ、5年152ページ、6年180ページ
- 3年14単元、4年16単元、5年11単元、6年10単元
- 3年約390g、4年約440g、5年約360g、6年約430g ※一の位を四捨五入
- 領域別に4色で色分けしている。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
 - 3年48、4年59、5年41、6年43
- 「しらべてみよう」コーナーでは、既習事項や生活経験を使って考える場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「雨水のゆくえ」の導入として、降雨中の校庭とアスファルトの写真に掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、各地の天気、空の様子4種類の資料を示している。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字で強調している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- ・ 5年「ふりこの運動」の考察場面では、6グループの結果を表す分布図からふりがが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。
- ・ 6年「水よう液の性質」の考察場面では、児童の吹き出しで実験結果の気付きを示している。
- 巻頭に観察の記録の例を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 知識の定着を図るための工夫

- 各学年の「思い出してみよう」に、既習事項を想起させる記述を示している。
- 各単元末に、「たしかめよう」として、学習の定着を図る問題を設定している。
- 各単元末に、学習を振り返る「ふり返ろう まとめノート」を設定している。
- 各学年の巻末に、「〇年の理科をふり返ろう～理科の見方」として、1年間の学びを振り返るページを設けている。

視点② 観察・実験の技能を習得させるための工夫

- 各学年に、実験器具や薬品の使い方、生き物の飼い方、計算等について説明するコーナーを設けている。
- 実験・観察等での注意点を、「注意」マークを付して示している。
- 4・5・6年に、理科室の使い方をイラストと写真で示している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点③ 興味・関心を高めるための工夫

- 各単元の冒頭に、写真やイラストを2ページにわたって掲載している。
- 問題把握をするために、気付きを促す写真を示すとともに、単元導入に行う活動には、短い文や児童の疑問や気付きを付している。
- 単元冒頭の「はじめに考えてみよう」のコーナーに、単元導入に考える問題を示している。
- 単元冒頭に「学習のめあて」を示している。
- 「理科の広場」のコーナーや「実験」で、学習の中での観察・実験とは別の実験道具や方法を紹介している。
- 「理科の広場」や「つなげよう」に、学習に関連する資料を示している。

視点④ 問題解決の能力を育成するための工夫

- 巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」に学習の進め方を示している。
 - ① 見つける
 - ② 調べる（問題をつかもう・問題・予想と計画・観察・実験・結果・結果から考えよう・まとめ・もっと知りたい）
 - ③ ふり返る
- 各項目を旗で示し、矢印でつないで、一連の流れのつながりを表している。
- 各学年で主に育てたい問題解決の力について、巻頭の「自然の不思議を、とき明かそう！」と巻末の「理科の考え方をはたらかせよう」コーナーに示している。
- 「自由研究」では、自由研究の進め方を各学年2ページにわたって紹介している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑤ 単元の配列の工夫

- AB判
- 3年179ページ、4年203ページ、5年195ページ、6年219ページ
- 3年15単元、4年17単元、5年11単元、6年10単元
- 3年約400g、4年約420g、5年約420g、6年約490g ※一の位を四捨五入
- 生命・地球領域と物質・エネルギー領域で色分けしている。

視点⑥ 補充的な学習や発展的な学習の取扱い

- 各学年に補充的・発展的な内容のコーナーを設定している。
3年31、4年36、5年31、6年50
- 「つなげよう」コーナーや「活用しよう」の問題では、既習事項を次の学習や生活につなげる場面を設定している。

4 内容の表現・表記

視点⑦ 挿絵・写真等の示し方

- 4年「地面を流れる水のゆくえ」の導入として、降雨中の校庭の写真、排水溝の写真を掲載している。
- 5年「天気の変化」では、雲画像、アメダスの雨量情報、空の様子3種類の資料を示している。
- 6年「人や動物の体」では、臓器の位置について、腹側から見た図を掲載している。

視点⑧ 配色や文字の大きさ等の工夫

- すべての文字にユニバーサルデザイン書体を採用している。
- ユニバーサルデザインによるレイアウトの工夫が行われている。
- 重要語句を太字で強調している。

5 言語活動の充実

視点⑨ 観察・実験の結果を整理し、考察する学習活動の工夫

- 各学年の考察場面では、短い文と児童の吹き出しで、考察の視点を示している。
 - ・ 5年「ふりこのきまり」の考察場面では、6グループの結果を表す分布図からふりがが1往復する時間と条件について考察する場面を設定している。また、調べた結果が他の班と違う結果になったときは、実験計画を振り返り再度調べる必要性を示している。
 - ・ 6年「水よう液の性質」の考察場面では、児童の吹き出しで考察する視点を示している。
- 巻末の「表す」に、「記録カードのかき方」「ノートのまとめ方」「伝えるときのまとめ方」「話し合いの仕方」を示している。
- 単元の最後に学習内容のまとめ方の見本を示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「観察・実験した結果から考察して表現することや、それらを実生活につなげて考えたり進んで活用したりすること」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭の「学習の進め方」に示した「見つけよう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「観察・実験」「結果から考えよう」「結論」「学びを広げよう」という学習過程は、結果に基づいて考えたり、結果を根拠にして説明したりする活動につなげるために効果的である。
- ・ 6年「人や他の動物の体」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図をほぼ実際の大ききで掲載することで、実際に見ることができない臓器の位置を実感できるようにしている。
- ・ 6年「水溶液」の考察場面では、「実験3の結果から、塩酸をアルミニウムに注いだときの変化について、自分の予想が確かめられたかを考えましょう。」と短い文で示すとともに、児童の吹き出しで考察の視点と考えを修正する様子を示し、予想と実験の結果を比べることや、両者が一致しない場合は考えを再検討する必要があることを意識できるようにしている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 巻頭の「理科の学び方」に、①問題をつかむ(問題) ②調べる・予想しよう(計画しよう・観察・実験・結果) ③まとめる(考察しよう・まとめ・学びを生かして深めよう・次の問題を見つけよう)という学習の進め方を示している。
- ・ 6年「動物のからだのはたらき」では、臓器の位置について、腹側と背中側から見た図を掲載している。また、巻末付録に、「人体模型」がある。
- ・ 6年「水溶液の性質とはたらき」の考察場面では、「実験6の結果から、塩酸にとけた金属はどうなったといえるか、考えましょう。」という短い文と児童の吹き出しで、考察の視点と考えを修正した様子を示し、予想と実験の結果が一致しない場合は、考えを再検討する必要があることを意識できるようにしている。

令和2年度から使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔生活〕種目〔生活〕

令和2年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

教科 [生活] 種目 [生活]

1 本市の実態や児童の状況

- 本市は、学校の立地条件により、体験活動の種類や実施方法は様々であるが、各学校の特色を生かした授業づくりを行うことができている。また、地域の協力を得られるなど、多様な体験活動を行うための人的環境が整っている地域が多く、地域の方との交流を生かした学習を行うことができている。
- 児童は体験活動に意欲的であり、互いにに関わり合いながら、自らの経験を生かして学習に取り組むことができている。しかし、他者と伝え合ったり、振り返ったりすることで、気付き同士の共通点や相違点に気付くような、気付きの質の高まりまでつなげられていない状況も見られる。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 具体的な活動や体験を通す工夫 ② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫 ③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫 ④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫 ⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑦ 単元・内容の配列及び分量
＜内容の表現・表記＞	⑧ 適切な写真や挿絵等の活用 ⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

3 各教科書の特徴

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
例示の工夫…「やくそく」「あんぜんにくらそう」「けんこうにくらそう」「いのちをまもろう」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場するキャラクターや子どもたちの吹き出しの言葉などを使って、気付きの視点を示している。
- 下巻巻末の「かつどうべんりてちょう」で、見方・考え方を例示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「こうていでくさばなやむしをさがそう」（上）「こうていであきをさがそう」（上）「こうていでふゆをさがそう」（上）「校ていで春をさがそう」（下）「みんなのこうえんであそぼう」（上）「こうえんであきをさがそう」（上）「ふゆのこうえんにいこう」（上）「春のくらし」（下）「夏のくらし」（下）「秋のくらし」（下）「冬のくらし」（下）で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を3回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 各ページに、めあてやめあてをもつための手がかりを短文で示している。
- 活動の終わりに、まとめとしてワークシートの記入例を示している。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

- 「つながる ひろがる」で第3学年へのつながりをもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻9単元、下巻9単元
- 上巻122ページ、下巻129ページ
- 上巻約380g、下巻約330g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A4判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、ショウリョウバッタやアゲハの幼虫のアップの写真を示している。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の様子を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、6種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方・聞き方の留意点を下巻巻末の「かつどうべんりてちょう」に示している。

東
京
書
籍

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
例示の工夫…「きらきらことば」「じぶんのあんぜんはじぶんでまもろう」「あるくとき」「やくそくをたしかめよう」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場するキャラクターや子どもたちの吹き出しの言葉などを使って、気付きの視点を示している。
- 下巻巻末の「がくしゅうどうぐばこ」で、見方・考え方を例示している。
- 白黒写真を用いて、見方・考え方を示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「なつとなかよし」(上)「あきとなかよし」(上)「ふゆとなかよし」(上)で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 各ページに、風船のイラストの中にめあてを示している。
- 単元のまとめとしてワークシートの記入例を示している。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻5単元、下巻5単元
- 上巻129ページ、下巻137ページ
- 上巻約300g、下巻約310g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元では、ウサギの抱き方について、挿絵を用いて示している。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の様子を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、8種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方・聞き方の留意点を下巻巻末の「がくしゅうどうぐばこ」に示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
例示の工夫…「あんぜんのぺえじ」「ものしりノート」「やくそく」「まいあさしているかな」「まいばんしているかな」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場する子どもたちの言葉や吹き出しを使って、気付きの視点を示している。
- 下巻巻末の「学び方図かん」で、見方・考え方を例示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「まちのきせつ（春夏秋冬）」（下）で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 各ページに、学習課題を設定するための問いや子どもの思いを示している。
- 各単元の終わりに、振り返りの時間を設け、活動のまとめをしたり、次の目標へとつなげたりできるようにしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

- 単元を通して学習の流れを左上に示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻11単元、下巻6単元
- 上巻124ページ、下巻120ページ
- 上巻約350g、下巻約330g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A4変型判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、モルモット4匹の写真を見開き2ページにわたって示したり、生き物を見付ける場所のヒントになる写真を示したりしている。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の過程を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、12種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方・聞き方の留意点を各巻末の「生活科 学び方図かん」に示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
- 例示の工夫…「やくそく」「できるかな」「おぼえてあんぜん」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場するキャラクターや子どもたちの吹き出しの言葉などを使って、気づきの視点を示している。
- 各巻末の「学びのポケット」で、見方・考え方を例示している。
- 「ひんと」で見方・考え方を示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「こうていを散歩しよう」(上)「生き物をさがそう」(上)「のはらであそぼう」(上)「あきをみつけにいこう」(上)「ふゆをみつけにいこう」(上)「のはらカレンダー」(上)「ぼかぼかお日さま出かけたいね」(下)「夏を楽しむくふうはどこ」(下)「秋はどこにやってきた」(下)「北風がはこんでくるものはなかに」(下)で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 生活科の教科目標から抽出した、六つの「力」(きづく・じぶんでできる・かんがえる・つたえる・ちょうせんする・じしんをもつ)を各ページに「活動のめあて」として示している。
- 各単元の終わりに、振り返りの時間を設け、活動のまとめをしたり、次の目標へとつなげたりできるようにしている。また、まとめ方を例示したり、学習後の満足度を示す「まんぞくハシゴ」や、思を書きこむスペースを設けたりしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

- 単元のはじめに、その単元が、年間の学習のどこに位置しているか示している。
- 「社会科へのまど」「理科へのまど」で第3学年の学習を、発展的な学習として示している。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻9単元、下巻7単元
- 上巻136ページ、下巻136ページ
- 上巻290g、下巻290g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、モルモットと触れ合う子どものアップの写真を示したり、生き物を見付ける場所のヒントになる写真を示したりしている。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の過程を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、9種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方・聞き方の留意点を下巻巻末の「学びのポケット」に示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて、自分の成長を振り返る活動を設定している。
- 育てたり採取したりした植物を使って調理したものを味わう活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場する子どもたちの言葉や吹き出しを使って、気付きの視点を示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「いつものぼしよ（春夏秋冬）」（上）「さんぼみち（春夏秋冬）」（上）で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を1回設定し、身近な地域に関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 単元の終わりに、発表会、祭り、手紙、造形などの表現活動が設定され、学習したことを振り返ることができるようにしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻12単元、下巻13単元
- 上巻128ページ、下巻104ページ
- 上巻310g、下巻260g ※一の位を四捨五入
- 右開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、ヤギのアップの写真を示したり、子ヤギの写真を示したりしている。
- 栽培に関わる単元では、アサガオを描いた子どもの作品を示したり、畑の写真を示したりしている。
- おもちゃ作りの単元のはじめに、手作りおもちゃのアップの写真を示している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。

例示の工夫…「ひろがるせいかつじてん」「どうすれば」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場する子どもたちの言葉や吹き出しを使って、気付きの視点を示している。
- 各巻末の「ひろがるせいかつじてん」で、見方・考え方を例示している。
- 「どうすれば」で見方・考え方を示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「なかよしの木の1年」(上)「きせつのおくりもの」(上)(下)で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 単元のはじめに、学習課題を設定するための問いを示している。
- 単元の終わりに、もっと知りたいことやしてみたいことを書き込んだ添付のシールを教科書に貼る活動を通して、学習の振り返りができるようにしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

- 単元のはじめに、学習の流れを示し、単元を通して、学習の流れが意識できるようになっている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻9単元、下巻7単元
- 上巻148ページ、下巻108ページ
- 上巻330g、下巻260g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、モルモットやハムスターなどの多様な表情の写真を示している。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の過程を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、7種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
例示の工夫…「あんしんあんぜん」「がくしゅうずかん」「できるかな できたかな?」
「こんなときどうしよう」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場するキャラクターや子どもたちの吹き出しの言葉などを使って、気付きの視点を示している。
- 各巻末の「がくしゅうずかん」で、見方・考え方を例示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「こうていをたんけんしよう」(上)「なつのこうていにてでみよう」(上)「あきのこうていにてでみよう」(上)「ふゆのこうていにてでみよう」(上)「わくわくボックス」(上)「もつとあきをさがしにいこう」(上)で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 各ページに、学習課題を設定するための問いや子どもの思いを示している。
- 単元の終わりにワークシートの記入例や「できるかな できたかな?」があり、活動のまとめや振り返りができるようにしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

- 単元を通して学習の流れを左上に示している。
- 「みらいに向かって」で第3学年へのつながりをもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻10単元、下巻8単元
- 上巻132ページ、下巻128ページ
- 上巻330g、下巻290g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、モルモットと触れ合う子どものアップの写真を示したり、生き物を見付ける場所のヒントになる写真を示したりしている。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示したり、発芽の様子を写真で示したりしている。
- おもちゃ作りの単元では、6種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- ユニバーサルデザインフォントを採用している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通した交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方・聞き方の留意点を各巻末の「がくしゅうずかん」に示している。

1 基礎・基本の定着

視点① 具体的な活動や体験を通す工夫

- 学校、学校の周り、公園、地域（町探検）での活動を設定している。
- 植物を育てる活動を設定している。
- 生き物と触れ合う活動を設定している。
- 身近な自然を観察したり、季節を楽しんだりする活動を設定している。
- 家庭生活に関する活動を設定している。
- 身近な自然や身近にある物を利用して遊んだり、遊びを工夫したりする活動を設定している。
- 次学年に向けて1年生を招待したり、自分の成長を振り返ったりする活動を設定している。

視点② 生活上必要な習慣や知識及び技能を身に付ける工夫

- 健康や安全、生活習慣に関わる知識・技能を示している。
例示の工夫…「みのまわりのあんぜん」「出かけるまえにかくにんしておこう」
「ちえとわざのたからばこ」「〇〇ときのちゅうい」「気をつけることは何かな」

視点③ 自分自身や自分の生活について考えるための工夫

- 教科書に登場するキャラクターや子どもたちの吹き出しの言葉などを使って、気付きの視点を示している。
- 各巻末の「ちえとわざのたからばこ」で、見方・考え方を例示している。

視点④ 自分自身と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもつための工夫

- 「はるやなつをみつけよう」(上)「あきをみつけよう」(上)「ふゆをみつけよう」(上)「きせつとあそぼう」(上)「きせつのはるかん」(下)「きせつのはんかどくらし」(下)で、季節の変化の様子を比べることができる。
- 町探検を2回設定し、同じ場所、人に繰り返し関わる活動を設定している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

視点⑤ 単元の目標の示し方及びまとめを行うための工夫

- 各ページに、学習課題を設定するための問いを示している。
- 単元の終わりにワークシートの記入例や「ふりかえる つなげる」があり、活動のまとめや振り返りができるようにしている。

視点⑥ 学習の見通しをもたせるための工夫

3 内容の構成・配列・分量

視点⑦ 単元・内容の配列及び分量

- 上巻9単元、下巻8単元
- 上巻143ページ、下巻135ページ
- 上巻280g、下巻270g ※一の位を四捨五入
- 左開き、判型A B判
- 上巻冒頭にスタートカリキュラムに関連するページを設けている。
- 写真や挿絵を用いて、様々な植物、野菜、生き物、おもちゃを示している。

4 内容の表現・表記

視点⑧ 適切な写真や挿絵等の活用

- 飼育に関わる単元のはじめに、モルモットと触れ合う子どものアップの写真を示したり、生き物を見付ける場所のヒントになる写真を示したりしている。
- 栽培に関わる単元では、植物や野菜の生長の過程を写真で示している。
- おもちゃ作りの単元では、12種類のおもちゃの作り方について、挿絵を用いて説明している。

視点⑨ 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

視点⑩ 伝え合う活動を通じた交流の場の設定やその工夫

- 子どもが記録するときや発表するときの参考となるような例を示している。
- 話し方の留意点を各巻末、聞き方の留意点を上巻巻末の「ちえとわざのたからばこ」に示している。

4 意見

広島市教科用図書採択審議会では、本市児童の課題である「他者と伝え合ったり、振り返ったりすることで、気付きどうしの共通点や相違点に気付くような、気付きの質の高まりまでつなげられていないこと」に対応する各教科書の特徴について、広島市教科用図書採択審議会調査員が作成した「令和2年度使用小学校用教科用図書の調査・研究報告書」を基に審議した。

意見1 教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

- ・ 生活科の学習を通して児童に身に付けさせたい資質・能力に対応した六つの「力」(きづく・じぶんでできる・かんがえる・つたえる・ちょうせんする・じしんをもつ)を設定し、学習のめあてとして示している。
- ・ 各単元の終わりに振り返りの時間を設け、活動のまとめをしたり、次の目標へとつなげたりできるようにしている。また、まとめ方の例示や、学習後の満足度を示す「まんぞくハシゴ」等は、児童の気付きの質を高めるために効果的である。
- ・ 「社会科へのまど」「理科へのまど」というコーナーを設け、社会科や理科とのつながりをもたせている。

意見2 東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

- ・ 学習のめあてやめあてをもつための手がかりを短文で示し、第1・2学年の児童にとって理解しやすいようにしている。
- ・ 活動の終わりに、まとめとしてワークシートの記入例を示している。
- ・ 「つながる ひろがる」というページを設け、第3学年へのつながりをもたせている。

